

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
東広島市立西条小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	4	4	4	4	5	5	26	6	32

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	6	3	3	9	
理科	5	4	3	12	

授業時数 計 21 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 21 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	専科	A	A	推進	専科	A	専科	A	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	B	B	推進	専科	B	専科	B	B	B	B	B
6年 4組 (担任: C)	C	C	C	C	推進	専科	C	専科	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: D)	D	専科	D	D	推進	専科	D	D	D	専科	D	D	D
5年 2組 (担任: E)	E	E	E	E	推進	専科	E	E	E	専科	E	E	E
5年 4組 (担任: F)	F	専科	F	F	推進	専科	F	F	F	専科	F	F	F
5年 5組 (担任: G)	G	G	G	G	推進	専科	G	G	G	専科	G	G	G

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数 (d)	授業時数の合計 (c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	29	A				0	22	22
6-2	29	B				0	23	23
6-3	30	H				0	23	23
6-4	30	C				0	23	23
6-5	29	I				0	23	23
5-1	29	D				0	21.6	21.6
5-2	29	E				0	22.6	22.6
5-3	30	J				0	22.6	22.6
5-4	30	F				0	21.6	21.6
5-5	30	G				0	22.6	22.6

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉

① 複数の学年や学級を担当することで授業準備の効率化を図り、空いた時間で教材研究を行い、児童の実態に合わせた指導の工夫を行った。

① 理科の授業において必要な植物教材をリストアップし、校内栽培担当者と連携しながら栽培することで、実験・観察に必要な植物を不足なく準備できるようにした。

② 教科担任制推進教員及び専科教員で定期的な情報共有を行った。学年や学校全体で取り組む必要のある課題に対しては、組織として取組を進めた。生徒指導主事と連携し、校内での生活ルールの統一や学習規律の徹底をより一層図るために、動画を作成し全校児童が視聴する場を設けた(図2)。




図2「動画」

② 第2学年～第5学年に対して「スマイルチャレンジ」として簡単な国語や算数等の2問テストを実施した(図3)。その結果を基に、基礎学力の定着に課題のある児童に対して、専科教員が中心となり個別で指導を行う場を設定した。

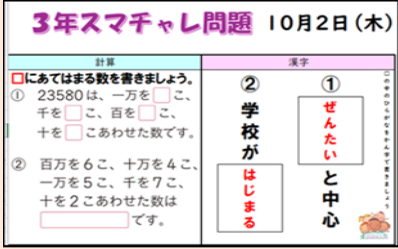


図3「スマチャレの問題」

④ 担任と協力・分担して教材研究・教材準備を行うことにより、理科指導の充実を図るとともに、担任の負担軽減を図った。

〈課題〉

④ 学年の学級数が多いため、専科を含めた時間割の調整が難しい。

〈成果〉

① 授業準備の効率化によって教材研究の時間が増加し、授業改善につなげることができた。その結果、児童の学力向上につながった。

〈令和7年度全国学力学習状況調査〉
理科正答率 71%
(広島県 59% 全国 57%)

〈単元テスト〉
正答率 86.5%
40%未満の児童の割合 2%

① 校内栽培担当者の協力により、種まきから結実までの期間内で実験・観察に最適な状態の植物を準備することができた(図1)。児童にとって実感を伴った学習内容の理解につながった。




図1「6年 水の通り道」

② 動画の視聴は、特に低学年児童にとってルールへの理解を容易にし、全校で落ち着いた学校生活を過ごすことにつながっている。校内教職員に対しても、児童の指導に関して再度意識統一を図ることができた。

② 様々な教員が関わることで、児童の多面的理解につながり、全教職員による指導・支援体制の強化につながった。

〈校内アンケート〉
「スマチャレは学習(復習)に役立った」
肯定的回答(第5学年) 89%

④ 各担任が行ってきた教材・教具、薬品等の準備を教科担任制推進教員が担うことで、担任に時間的なゆとりが生まれ、教材研究や他の担当業務に充てる時間の確保につながった。

〈対策〉

④ 高学年では専科数の多さに加え学年内行事も多い。学年の実態をよく知る学年内担当者が主となり、教科担任制推進教員と密な連携をすることによって指導時数の確保を徹底する。